



2004.12.16
第125号

編集
福島県教育庁
会津教育事務所
編集協力
小・中学校長会
発行
福島県市町村
教育委員会
北会津支部
会津支部
会津支部



「改革と改良」

会津教育事務所管内
三支会連絡会長
齋藤芳夫

今、日本国中が「改革」の嵐の只中である。当然教育界も例外ではない。それどころか、教育改革をもって嚆矢とするの趣すらある。

しかし、改革の嵐の吹きすさんだ時代には、その行き過ぎや脱線という、暴走による悲喜劇の事例に事欠かない。

藤村の「夜明け前」には、明治維新前夜という大騒乱の嵐が、木曾路を襲う様が活写されているが、それまで木曾路を守り育んで来た良心が、改革の暴走の前に翻弄され打ちのめされていくのには心が痛む。同様のことについて、わが会津の地においては、戊辰の恨みとなって今も消えずにある。

また、戦後民主主義改革の混乱の中では、日本的なものすべてに批判の矛先が向けられ、日本語として仏語を採用すべきとか、ローマ字表記にすべきとか、とんでもない提言が大真面目に論じられたとも聞く。それほどに、人々は、時代を襲う熱病にかかりやすいということなのだろう。

さて、最近では、新しい学力観と学力低下論が対立的に論じられ、あらぬ方向に議論が飛び火する気配もある。そもそも、二項対立の視点では見えなくなってしまうものこそ、大切にされるべきものではないかと思う。

いずれにせよ、混沌のうちには、不毛の論議にくみしては

ならないと自戒したい。ところで、私は、農業を業とするものだが、農業と教育には、その必要とされる感性に、似たものがあるように思う。

その上で気付く事だが、農業においては、改革という言葉は余りなじまないようなのである。農業改良・土地改良・品種改良等々、そのことごとくが「改良」であることは、教育もまた改良こそがふさわしいのではと思わせる。

ただし、「改良」し続けることをおろそかにすれば、たちまち「改革」の嵐に見舞われることを忘れてはなるまい。

平成16年度管理訪問を終えて

訪問校（小学校57校、中学校26校）すべてにおいて、学校事故や教職員による不祥事の防止を最重要課題としておりました。今後各校での取組が実効あるものとなるよう、特に、次の事項について一層努力願います。

学校管理上の課題と具体策

・ 自校の課題と対応策及び校内体制等を見直し年度後半へ向けて改善する。

学校事故防止

- ・ 普段の巡視・点検等の内容を工夫して施錠、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、瑕疵による不法侵入、学校火災を防止する。
- ・ 普段から表簿、パソコン及びフロッピー等の保管等を厳重にし、個人情報を適切に管理する。

教職員の不祥事防止

- ・ 校内服務倫理委員会の開催時期、内容方法を工夫して一層機能するものとし、教職員一人一人の危機管理意識を高める。
- ・ 通知「教職員の懲戒処分について」をもとに事例研修を実施し、飲酒運転、交通加害事故、セクシュアルハラスメント、体罰、学校徴収金私的流用等の絶無を期する。

事故発生時の迅速適切な対応

- ・ 事故発生時の報告・連絡・相談体制が機能するか（特に管理職不在時）見直すとともに、必要に応じ危機管理マニュアルの内容や活用の仕方等を改善する。

基礎学力向上を目指す授業づくりの成果と課題

これまでの学校訪問等を通して、「授業づくり」の各観点について以下のような成果と課題が得られました。平成16年7月16日付け第124号「あいづね」に載せました「基礎学力向上を目指す授業づくり」とともに、今後の参考としてください。子どもたちから、次のようなつぶやきが出るように！

1. 課題設定



さあ、がんばるぞ！

- 既習内容を想起させたり、前時の学習から課題として残ったことを引き出したりして、課題を設定する工夫が見られています。
- 知的好奇心をくすぐる事象提示を行い、追究する必然性をもたせる授業が増えてきています。
- ☆何を、どう追究していけばよいか見通しがもてる具体的な課題を設けましょう。



なるほど
こうあればいいのが

- 自力解決の時間を設定し、一人一人に応じた支援を具体的に考えた授業が増えてきています。
- ☆既習の経験や既習事項を基にして、その子なりの根拠ある予想を立て、どの方法がよいか吟味できるような支援をしていきましょう。
- ☆グループ学習を取り入れる場合は、その効果を十分考えるとともに、グループ内での学習の進め方やグループ学習で何を学び合わせるのかをよく検討してみましょう。

2. 課題解決



3. 定着の場



やった、できたぞ！
よし、分かった

- ☆今、何を学習しているのか、何が問題となっているのか、何をどう解決しようとしているのかを自覚させ、その子なりに追究できるように支援しましょう。
- ☆習熟の程度を考慮し、適度な刺激となるような問題を与えたり、今後の学習への意欲付けとなるような工夫をしましょう。

えーと
今日はここまでできたよ

- 何ができるようになったのか、何が分かったかを自覚できるようにしている授業が増えてきています。
- ☆自己評価や相互評価はカード等への記入で終わることなく、次時以降に生かす工夫をしましょう。
- ☆子どもの活動の中から残された課題を取り上げ、次時への学習意欲を喚起するなど、授業の連続性を考えましょう。

4. 振り返り



生涯学習課より

「地域子ども教室」推進事業

子どもの居場所みんなで作くりませんか

最近の青少年問題は、地域社会における人間関係の希薄化や多様な経験を通して社会性を培っていく機会が少ないなど、地域社会の育成機能の低下が一因である。この緊急的課題に対応し、次代を担う心豊かでたくましい子どもたちを社会全体で育むため、「地域子ども教室」を緊急3か年計画でスタートした。具体的には、放課後や週末に学校や公民館等を安全・安心な子どもの居場所として開放し、地域の大人の教育力を結集し、様々な体験活動や地域住民との交流活動を行うこととしている。域内では、1市5町1村7居場所で、地域の実情を踏まえ、実行委員会が設置され特色ある事業が展開されている。参加者は、いろいろな活動を通して、学年の異なる子どもたちや地域の方々と交流することで、自主性や社会性、創造性を育てている。また、子どもとの触れ合いを通して大人たちも交流を深めることができ、人を育む地域の再生にも結びつくと考えられる。

この事業を実施するにあたっては、学校も子どもたちに活動への参加を促したり、施設提供を行うなど、積極的にサポートすることが強く望まれる。

高郷村の重要文化財の紹介

高郷村教育委員会

銅 鐘（梵鐘）

工芸品 銅鐘(梵鐘)

高郷村教育委員会指定第二号

総高 126cm 電頭 28cm 身高 88cm

撞座の中心高 22cm

口径 53.6cm 口厚 8cm

所有者 円満寺 耶麻郡高郷村大字揚津字中道甲1930

JR磐越西線荻野駅より西に約2kmの地に、戸数20戸の滝下利田(たきしたかがた)の集落がある。一級河川阿賀川を一望に見落とせる河岸段丘の高台に清水山円満寺の境内がある。円満寺は、室町期の永正5年(1508)小牧館主小林伊勢介敦平の

建立と伝えられる。この鐘は、行願和尚の勧募によるもので、銘は本寺である会津若松自在院住職栄敏が撰し、鋳物師早山伊次(ただつぐ)が鋳造し、享保20年(1735)鐘楼に掛けられたものである。



心に残る人々

磐梯町教育委員会教育長

齋藤 就治

今年の3月、38年の教職生活を終えた。この間、子どもたちを含め数え切れない「心に残る人々」との出会いを頂いた。どの方々も、その時その時の私にとって、得がたい教訓や示唆を頂いた方々である。

40代前半にお会いしたM氏、T氏(畏敬する上司であり、偉大な先輩)からは「理」と「情」について、そのお姿から深く考える機会を頂いた。

人が心から感動し行動に移すとき、そこに「理」「情」どちらが介在するのか、ということである。両氏は、ある意味で正反対の方であった。「情」を大切にされるM氏、「理」を大切にされるT氏、その違いの大きさに戸惑ったこともあった。

ある本の中に、人は「理もあり、情もある生き方が理想」と書いてあった。凡人の私などにとって、辿り着けない世界ではあろうが、両氏から頂いた「理」と「情」の世界について、折に触れて考えていきたいと思っている。

鐘は、中型で均整がとれ、電頭は簡潔な表現で、笠形はまるくふくらみを持ち、周に圏条をめぐらしている。上帯は幅狭く文様はなく、下帯には各縦帯の下に法螺貝と転法輪、中間には、葉状唐草を鋳出してあり、乳は縦帯中に8個と各区5段5列に圏線がはいった半球形の頭部にくびれた基部の茸状の物を百八つ並べている。池の間は、一区に7段9行、二区に7段8行の梵字が陽刻されている。三区、四区は陰刻で、三区には14行の詞に鋳造の経緯を述べ銘は八韻、この鐘の功德をうたっており、四区には、栄敏、治工早山清左右衛門伊次と銘があり、また、各縦帯の中段には、一字ずつの梵字が陽鋳されている。

撞座は八葉複弁で、蕊はこまかく、弁は広く厚い肉どりである。

早山氏、初代兼次に始まり、永正以来330有余年続いた会津における鋳物師で、七代子次の時、別家を創立した常次が清左右衛門を称し、この鐘を鋳造した伊次は、四代目の名跡を継いだ人である。

さらに、同人鋳造の半鐘(総高45.9cm口径34.4cm)も同寺本堂軒先に掛けられている。毎年、檀家の有志が大晦日に集い、百八つの除夜の鐘を撞いている。

私の抱負



山都町立山都中学校 校長 長谷川 良三

チャンス到来

学校規模の縮小。さびしいことである。本校も過疎の町の学校である。一三二名の生徒が平成二十年には半減してしまう。現在、生徒数減少に伴うさまざまな課題が、もう先送りのできない問題として待ったなしの解決を迫られている。部活数の削減、学校行事の見直し等。怖いのは、「気持ちの過疎化」である。すべてがマイナス思考になり「この規模では」と、できない言訳をそこにもっていく。今大切なことは、できることとできないことを整理し、学校の実情を正しく理解してもらうこと。保護者・地域の協力を得ること。現状を最大限活用し生徒個々のよさを引き出すこと。今が学校を変える絶好のチャンスであると考えている。



金山市立横田中学校 教頭 古川 一博

地域に根ざした学校

県の南西部に位置する、全校生二十八名の本校に新任教頭として赴任し、半年がすぎました。一番変わったことは、対外的な仕事が多くなったことです。その中で「地域に根ざした学校」ということを考えることが多くなりました。「この前は、大変お世話になりました。」「いや、自分も横中の卒業生だから。」地域の方とこのような会話をすることが多くあります。本校の廊下には、昭和四十三年以降三十六枚の卒業式の写真がずらりと並んでいます。一人一人の生徒の周りに、保護者そして多くの地域の方々がいることを意識し、校長先生、先生方と協力し、生徒たち一人一人を見つめながら、日々の活動を充実させていきたいと思えます。



会津若松市立神指小学校 教諭 江川 洋介

磐梯山に誓って

磐梯山があまりにも間近に見えて驚いた四月。時の流れは本当に早いもので、あれから八か月が経ちました。地域の皆様や先輩の先生方にご指導いただきながら、また、担任している元気な子どもたちに負けまいとふんばりながら、なんとか現在に至っています。この八か月を振り返り、赤味を増す母なる山に、今後の決意を誓いたいと思えます。第一に、「聞く」ことを大切にします。子どもたちの声に積極的に耳を傾け、児童理解に努めます。また、先輩の先生方からたくさん教わり、教育的な技術を高めていきたいと思えます。第二に、「動く」ことを大切にします。おたよりや訪問などの家庭との連絡や授業の準備など、時間を惜しまずに努力する教師を目指します。

作品と指導

工作

「瑛那」

会津若松市立北会津中学校 3年 梅宮 瑛那

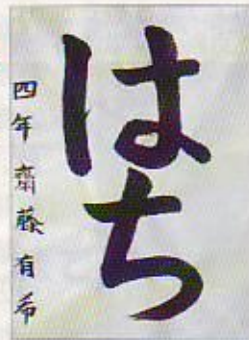


自分らしい立体造形ができるように、名前の思いや漢字の形をもとにアルミの針金で自由に工夫させました。フルネームがバランスよくまとめるように配慮しました。自分の誕生日(10月31日)を黄色であらわし、瑛那さんの好きな和風の雰囲気がよく表現されています。『15歳の記念碑』として思い出の作品になりました。指導者 原 幸子

習字

「はち」

塩川町立駒形小学校 4年 齋藤 有希



「結び」は筆の軸を指で回さないで方向を変えること、「曲がり」は筆先の通る位置に気をつけること等を指導し、平仮名の優しい雰囲気が出せるようになることをめあてに書かせました。指導者 渡部 好純

絵

『フワフワの花ぼたけ』

湯川村立菟川小学校 2年 浅沼 怜那



クレヨンで描いた花を指でこすってぼかすことで、軽やかなフワフワした感じを表現することができました。間にちりばめた葉や虫たちの配色もバランスがとれていて、リズムカルで楽しい作品に仕上がりました。指導者 小磯 早苗